内外電報

米國の民心緊張

米國政府の對日抗議は自國の民心をして少なからず緊張せしめた（紐育電報）

支那共同調査應諾

委員既に尼港に出張

支那政府は尼港支那駐屯の邦人虐殺事件に關し小幡公使の要求に對し三十日共同調査を承諾し委員は既に尼港に向へり（北京來電）

天津會議の内容

張曹の意見合致せず

張作霖二税を差押ふ

呉佩孚善後策提出

十元兇懸賞逮捕

官吏俸給令公布近し

徐樹錚捕はる

今後の政局

一般の觀測

政友の三色彩

閣僚の進退

周内閣不成立

總統樂まず

三井物産淘汰

高野氏外二十名

殖銀社債發行

陸相更迭説

關東所得税令

黑龍州

日支開戰説

獨代理大使來

浦鹽内閣改造

露波休戰開始

新閣組織決議

某相辭任無根

兒島中將赴任

西伯利札禁止

英佛對露策

サガレン領有は不可

米國の抗議に對し吾は通牒を發す

海軍異動

航空局長

山梨中將補任

航空局員任命

島田氏は除名されて居る

最勢懇話委員會に於て

京株規定許可

總督英使招宴

大修落

羅沙界の恐慌來

輸入停滯品約一千萬圓　今秋需要期後は大修落

修落の圈内を脱し居りし

亞鉛鉛は强調

契約解除

最高需要

平南物産取引額

總額一千萬圓

四大學生講演會

東津水利結合

漸次昂騰

風塵錄

人事

社告

京城府内に於ける本紙販賣店左記の通り京城日日新聞社

急告

豪雨沛然襲來し 京龍全市浮城化す

濁流滔々、天地又暗憺 交通機關杜絕し慘害無數

電車汽車不通、瓦斯又供給不能に陷る

去月に勝る大洪水

漢江畔は

一方旭川は

電車不通 臨時列車運轉

被害狀況 目下取調中

京義京元兩線不通 平壤炭礦全部浸水

全部を浸して更に…

避難所を…

軍隊出動

旭川堤防 防水隊の活動

市內の被害狀況

尹德榮家堤防決潰 附近家屋五戶流失

家屋倒壞して 鮮人重傷

清溪川に 死體漂着

鮮人行衞不明

家屋倒壞卽死

天井の墜落

山手道の被害

清凉里送電中止

浸水及び破損箇所

道路の破損

豪雨中の火事

天候險惡 雷雨あるべし

千古斧鉞を加へざる 神秘の大森林を橫斷

久邇宮殿下の御壯擧 北海道を御探檢あらせられ親しくアイヌ生活を究さす

深山湖沼の雪を踏んで

更に新計畫 千古斧鉞を加へざる…

又も海軍の重要書類紛失

青山の大火 長井博士邸より

猫（十一） 高慢黨の壽美嘉

雨天順延の孫一派 公訴不受理問題判決

監獄前の道路崩壞被告押送不可能の爲め

公判中止

道路破壞

雨を犯して

北樺太の占領は斷々乎として繼續せよ

ポーツマス條約には抵觸せぬ 米國が抗議を持込んでも

某外交通の談

攻究にあると虐殺され

聲明する 米國が從…

新古兵數百名 入り亂れて爭鬪 數十名の負傷者を出す

放蕩の結果 八方塞りで自殺

金の無いのが身の結局 親からは意見、女郎からは無心

極道なる…

水盃内に…

家計も豊… 首も廻らず

國勢調査の十月一日には 紫インキの記念押印

切手や繪葉書も發行される 何も一流の專門家の技巧を凝した物

永遠に記念

歷史的緣故

五日以前卽ち九月廿五日から一齊に送出す豫定である

京城琵琶界（の） 加德旭節女史 石田旭藻女史 永井旭美女史

第貳拾四回 決算報告

貸借對照表

京城電氣株式會社

取締役社長 大橋新太郞

大正九年七月

(三十一) 判官照手姫 旭亭桜山口演

（鐵谷の廟の乞食僧）

●古本高價買入 群書堂

演藝案内

喜樂館

黄金館

朝鮮郵船會社

京城永樂町 永樂醫院

大正館 人間タンク 上泉伊勢守

京城日日新聞

社説

サガレン占領と米國

殖民地概説（九）

拓殖局編

第五節　海運及鐵道

第一　朝鮮

財界萎縮

滿蒙開拓

支拂延滯

滿鐵石炭政策批難

滿鐵にも理由あり

安價供給

逆流

創作

ヒマラヤ山人

釘本藤次郎君